

CONTENTS 目次

- 2 特集 戻ってきた「矢板、にぎわいの秋」
- 8 やいたのみなさんコンニチハ・ヤイタゴハン ほか
- 10 子育てひろば・図書館へGO！ ほか
- 12 今月のニュース&トピックス
- 14 はつらつ通信
- 15 市からのお知らせ
- 31 #yaitagram・クイズ&アンケート
- 32 ゆかりびと・編集後記

特集

戻ってきた「矢板、にぎわいの秋」

「やっと矢板のにぎわいが戻った ——」

10月上旬、中心市街地のにぎわいをもたらす「軽トラ市」と矢板の秋の風物詩「やいた花火大会」が、コロナ禍を乗り越えて本格的に復活。軽トラ市では、約1万2,000人、花火大会では約3万人が会場に詰めかけました。今号では、写真とともに当日の様子とイベントを盛り上げた出演者・出店者などの声をお届けします。



COVER 表紙の写真



表紙の写真は、軽トラ市で矢板高校生が運転する「ポッポ自動車」に乗る親子を撮影したものです。自動車からシャボン玉が出た瞬間、とびっきりの笑顔を見せてくれた女の子、喜ぶ子どもたちのために車を走らせ続けた生徒さんの姿が印象的でした。

POPULATION 人口 (10月1日現在)

30,645人 (△38)	出生	14人
男 15,246人 (△16)	死亡	45人
女 15,399人 (△22)	転入	42人
13,380世帯 (△1)	転出	49人

()内は9月1日との比較 ※住民基本台帳をもとに算出
△は減



矢板市商工会 横田 文哉さん

にぎわいの復活に向けて

コロナ禍によって中止せざるを得ない状態になっていた軽トラ市と秋の花火大会には、市民だけではなく、市外の皆さんからも復活を望む声をたくさんいただきました。そして、多くの方に親しまれているイベントだということに改めて実感することができました。毎年試行錯誤を重ね、恒例のイベントとして少しずつ定着してきたタイミングでのコロナ禍による開催中止は、私たち関係者だけでなく市民の皆さんも悔しい思いだったのではないのでしょうか。そんな中、今年の秋、2つのイベントを本格的に開催することができ、喜びも大きかったです。

両イベントともにテーマは「にぎわいの復活」。また、子どもたちに思い出を作ってもらいたいとの思いが込め

られているのも大きな特徴であり、大人たちの力を集結させることができた理由だと思っています。道いっばいにあふれる人、花火に照らされるたくさんの人の笑顔を見ることができたとき、コロナ前以上のにぎわいを感じうれしく思いました。

「わが地域を少しでも活性化しよう」「わが故郷・矢板市を希望あふれるまちへと変革しよう」と始めた花火大会でしたが、コロナ禍を経てどちらのイベントにも言える想いだと感じています。このにぎわいを絶やすことなく、次の世代につなぎ、いつか子どもたちがこのにぎわいの担い手となってくれることを楽しみに今後も回を重ねられたらと思っています。

第15回 にぎわい × 軽トラ市 2023.10.01 Sun



アクティブスクール矢板 君嶋 青空さん

温かい拍手が子どもたちの自信に

今回の軽トラ市は、コロナ禍にダンスを始めた子どもたちにとって初めてのステージでした。予想以上のお客さんに緊張していた子もいましたが、人前で踊る楽しさを知れたステージになったと思います。「もっと上手になりたい!」「違うダンスにもチャレンジしたい!」という次の目標もできました。今後もさまざまなイベントに出演し、会場を盛り上げていきたいと思っておりますので、子どもたちの背中を押す温かい拍手をお願いします。



有限会社 新川屋 小川 素市さん

お客さんの笑顔が私の喜び

軽トラ市には第3回から出店しています。コロナ禍を経ても変わらないにぎわいとお客さんの笑顔に元気をもらいました。軽トラ市の良いところは、売り手と買い手が直接つながること。これをきっかけにお店に来店してくれるお客さんも増えました。また、お酒を片手に仲間と楽しく語り合うお客さんたちの笑顔を見るのはとてもうれしいですね。次回もおすすめのお酒を軽トラにたくさん積んで皆さんにお会いできたらと思っています。



にぎわい × 花火大会 2023.10.14 Sat



花火師(金太郎玩具店)
渡邊 将一さん

来年も矢板の夜空を花火で彩りたい

今年も多くの方から感動・感謝の言葉が寄せられました。花火は上を見上げるもの。暗いニュースが多い昨今ですが、花火を見上げて笑顔になることで、上向きな希望につなげ、皆さんに元気を届けられたことが何よりの喜びです。そして、市民の力を集結させているこの素晴らしい花火大会に関わることができ幸せだと感じます。また来年、秋の澄んだ矢板の夜空に、きれいな大輪の花を咲かせられることを楽しみにしています。



プロフィール
大久保 智弘さん

にぎわいとふれあいで、矢板を元気に

矢板がこんなにたくさんの人でにぎわい、ふれあう光景は、本当に久しぶりでした。うちの焼きそばは太麺が特徴で、味付けにもとことんこだわって作っている自慢の一品なんです。混雑してお待たせしてしまう時間もありましたが、「ありがとう」「おいしい」って言ってもらえて、疲れが吹き飛びました。やっぱりお客さんの顔を見て、直接お話しができることは楽しいですね。これからもイベントを通じて、矢板市が元気になるお手伝いできればと思っています。

